

観音寺天井絵プロジェクト



「うつろい」は、私が日々の生活の中で強く魅力を感じていることの一つです。誕生、成長、別れ、そしてまた誕生、時の流れが作り出す止まることのない変化と、それを楽しみ味わう日本オリジナルの感覚は、私がもの造りをする際の大きな柱となっています。寺院とは、魂の拠り所として、日々変わらぬ行が受け継がれている場所です。私はその中に「うつろい」を作り上げようと考えました。

堂内にコの字に連なる46枠の格子天井を一枚の作品であると捉え、お堂の端から端へと歩けば頭上の花は、春、夏、秋、冬と順に移り行き、さらに、四季の移ろいに重ねて、草花の背景には、日が昇り暮れて夜へと変化する空の色を重ね合わせ、お堂をくると一周すれば、朝の空には晴れやかな桜や菜の花、夕暮れ空の下には彼岸花(紅葉でもいい)や豊かな果樹の実りと、1年の中と1日の中を一度に散歩することができます。

格天井に描かれる四季の花は、装飾であると同時に仏への供物でもあります、したがって全ての植物は本尊、釈迦如来像方に頭を向けて描かれています。

岡田 真由子